

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・タブレットドリルやドリルパークに取り組んだり、プリントを中心とした東京ベーシックドリルや南六チャレンジプリント、計算ドリルに取り組んだりしたことで基礎的な計算力が高まっている。
- ・自分の考えを絵や図、言葉などを用いてノートに説明できる児童が増えた。
- ・デジタル教科書、スクールタクト、学習探検ナビなど、ICTを積極的に活用したことで、主体的に取り組む児童が増えた。
- ・具体物や半具体物を操作する活動を取り入れたことで、意欲をもって問題解決に取り組むことができた。

(2) 課題

- ・数直線や図を使って立式する児童は増えてきてはいるが、文章問題の意味を理解して数直線や図に表すことのできる児童が少ないため、文章を正確に読み取る力を高める必要がある。
- ・文章問題で正しい演算決定ができない児童が多いため、□や文字を使って場面通りの式に表す力を身に付ける必要がある。
- ・図形や表、グラフの算数用語の定着ができていない児童が多いため、定期的に復習に取り組む必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きい数・小数・分数や時こくと時間は、目標値を上回っている。</li> <li>・わり算や□を使った式は、目標値を下回っている。また、「思考・判断・表現」は目標値を下回っている。</li> </ul>	/	/
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面積や角の大きさに関する問題は、目標値を上回っているものが多い。</li> <li>・分数やわり算に関する問題は、目標値を下回っているものが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四則演算は、目標値に近いものや上回っているものが多い。</li> <li>・図形や長さ・重さは、目標値を下回っているものが多い。</li> </ul>	/
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整数のなかま分けや分数の計算は、目標値を上回っている。</li> <li>・領域別正答率では、すべての観点において、目標値を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算のきまりや割合に関する問題は、目標値を上回っているものが多い。</li> <li>・図形や面積に関する問題は、目標値を下回っているものが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域別では、「測定」以外は目標値を上回っている。</li> <li>・観点別では、全ての観点において目標値を上回っている。</li> </ul>

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な計算力はほぼ身に付いている。一方で、円の半径、重さの単位、グラフの見方など、計算以外の問題で用語や単位の意味が曖昧になっている児童がいる。</li> <li>・分数の問題の正答率が低く、定着ができていない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・□を使って立式をしたり、あまりのある除法で、正しくあまりの処理をしたりといった、かけ算・わり算の思考力や文章を正しく捉えて判断する問題で誤答が多く見られる。</li> <li>・文章問題を正しく捉えて、数式で表すことが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を見て意欲的に学習に取り組む児童が多く、基礎的な力が定着している。</li> <li>・表やグラフなどを読み取り、活用する力に課題がある。</li> </ul>

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な計算力はおおむね身に付いている。</li> <li>わり算の計算の仕方や分数を正しく理解できていない児童の割合が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフやデータを正しく読み取ることのできる児童が多い。</li> <li>図形の学習では、平行四辺形の作図をすることができない児童の割合が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に学習に取り組んでいるが、学習したことを生活や学習に活用する力は弱い。</li> </ul>

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の定着度を確実にするために、計算問題を反復させる。</li> <li>金曜補習や朝学習の時間を活用し、児童の理解度を把握して、習熟度に合わせた練習問題に取り組むことで学習の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>概念形成や問題解決場面では、具体物や半具体物を使った操作的活動や、図やテープ図で表現させる活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活に身近なものや事象を題材に取り上げて、児童自身が考えてみたいと思える問題や課題を設定する。</li> <li>実物を活用し、実際に動かしたり体感したりできるような活動を取り入れることで、学習への意欲を高める。</li> </ul>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>ドリルパークやタブレットドリルを活用し、習熟度に合わせた練習問題に取り組むことで基礎学力の定着を図る。</li> <li>数学的な活動を多く取り入れ、長さや重さなどについての量感を養う。</li> <li>図形の学習では、具体物を実際に操作することで、図形を構成する要素を正しく捉えられるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立式の際には数直線を使って考える習慣を身に付けさせる。</li> <li>自分の考えを絵や図と共に言葉で伝える力を付ける。また、考えを友達と交流することで、多面的な考えを身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童自身が考えてみたいと思える問題や課題を設定する。</li> <li>学習の見通しがもてる掲示の仕方を工夫する。</li> <li>ICT機器などを積極的に活用する。</li> </ul>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットドリル、東京ベーシックドリル、計算ドリルなどに繰り返して取り組み、苦手なところ（特に小数やわり算の計算と図形の作図）の強化を図る。</li> <li>数量への関係を正しく捉えられるよう、図や数直線を日常的に使えるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「見当を付ける」「推測する」活動の時間を確保する。</li> <li>自分の考えを図や数直線を用いて分かりやすく表すことができるようにする。</li> <li>図形の具体物を、実際に操作して考えさせることにより、図形を構成する要素を正しく捉えられるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活に関連付けた課題を提示する。</li> <li>既習事項を意識させ、活用できるように掲示し、学習の見通しをもたせる。</li> <li>ICT機器などを積極的に活用する。</li> </ul>